入選

宇部　由季子（うべ　ゆきこ）　第七小　６年生

作品名:「かえるくん、東京を救う」
図　書:はじめての文学　村上春樹

これといった特徴のない銀行員の片桐。ある日、仕事から帰るとアパートの玄関に二足歩行で言葉をしゃべるかえるが。このかえるくんが言うことには、二人で力を合わせて直下型の大地震を防ぎましょうとのこと。ここから片桐とかえるくんの冒険が始まります。

話すかえるにもおどろきましたが、片桐が一番疑問に思ったのは何のとりえもない自分がかえるくんのパートナーに選ばれたのかということでした。かえるくんが答えます。

「たしかにあなたはあまり目立つ人ではありません。その代わり人が嫌がる仕事をまじめに続けていたり、家族のために自分をぎせいにするなど共に戦う相手としてあなたほど信用できる人はいない。」

片桐は結局、地震を止める戦いには加われなかったのですが、これにまたかえるくんが

「あなたは無意識の中で助けてくれました。」

と片桐をたたえます。これらの物語は仕事に行くと中の道でたおれて病院のベッドの上でうなされながら片桐が見た夢なのですが、私は何となく納得して物語を読み終えていました。また片桐のようでありたいと思いました。

世の中には片桐のような人がたくさんいて、今日もけん命に努力しています。その努力に支えられて私達は生活しています。ただその努力にはほとんど注目が集まってはいません。テレビのトップニュースや新聞の見出しをかざることもありません。でも、たしかに私達は支えられているはずなのです。筆者はこの物語を阪神淡路大震災のニュースを見ながら書いたそうです。私達の記憶にも新しい東北大震災のニュースでもそうでしたが、復興に向けてけん命に努力する人達の姿やそれを支えるために集まった様々な力。これらたくさんの人達の心の中に片桐がかえるくんに認められたのと同じすばらしさがあるはずです。

ふだんの生活の中では、少しの不満ががまんできなかったり、まだまだ自分がよければそれでいいやと思ってしまうことが多く、多分今の私の夢まくらにはかえるくんは立ってくれないと思います。あと約半年で私も次のステップに進みます。四十才の片桐までには時間はありますが、何とかかえるくんがある日いきなりたずねてきてくれるように、日々の小さな努力や優しさを積み重ねていきたいと思います。

そして無意識の中でかえるくんを支えられるところまで成長していきたいと思います。